

2021年度10月入学・2022年度4月入学金沢大学大学院法学研究科（修士課程）

第1期募集 学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 法学・政治学専攻 選抜区分 外国人留学生特別選抜

科目名 法理学1 記載者氏名 _____

解答例又は出題意図

出題意図

グスタフ・ラートブルフの法哲学において最も論争の対象となっている「ラートブルフ定式」についての理解を問うものである。

問1 この問は、ラートブルフ定式が書かれた時代背景、受忍不能定式と否認定式のそれぞれの内容、ラートブルフが『法哲学』（1932年）等で主張していた法概念とどの部分が一致していてどの部分が異なっているのか、ラートブルフ定式がドイツの裁判所に与えた影響、ハートによる批判について十分な知識を受験生が有しているか否か、を確認するためのものである。

問2 ラートブルフ自身は、問題文で引用した3つの例はすべて平等原則に反しているがゆえに法ではないと主張した。これに対してラートブルフの法哲学内在的な観点から、平等原則を形式的な原則であると解し、どのような観点に基づき等しいもの、等しくないものを区別すべきかについて平等原則は中立的であると解するならば、3つの例はナチスの世界観に基づけば平等原則に反していないと解する余地もある。また、ハートのような法実証主義的な観点からの外在的な批判も考えうる。この問は、受験者がラートブルフの主張を鵜呑みにせず、批判的な考察を行う態度と能力を有しているか否かを確認するためのものである。